

奈良県保育士等実態調査結果（要約版）のポイント

（１）保育士登録者用調査

①保育士として働く中で感じるやりがいは「子どもの育ちに関わることができた」が最多

・保育士として働いてこられた中で「やりがい」に感じることは、「子どもの育ちに関わることができた」が最多で88.5%、以下、2位が「収入が得られている」39.6%、3位が「信頼できる仲間ができた」30.2%となっている。 → P3の4（問17）

また、この傾向は経験年数や雇用形態別に見てもほぼ同様である。

→ P11の2（問5と17）（問11と17）

②潜在保育士の3分の1が今後保育士として勤務することを希望

・（現在、保育士として勤務していない方の）今後の就労希望では、「保育士として働きたい」が31.7%で最多となり、以下2位が「保育士以外として働きたい」23.3%、3位が「就業希望はない」12.3%となっている。 → P5の8（問35）

③保育士の7割が勤務内容と比べ給与が「安い」または「やや安い」と感じている

・現在の給与は勤務内容に比べ妥当だと感じるかどうかについては、最多が「安いと思う」43.4%、2位が「やや安いと思う」27.2%であり、両者を加えると7割（70.6%）を越えている。 → P2の2（問14-1）

また、給与が安いと思う主な理由は、最多が「仕事の量が多い」40.4%、2位が「責任が重い」21.8%、3位が「生計を維持するのに足りない」19.0%となっている。

→ P2の3（問14-2）

④希望する雇用形態は「パート・アルバイト」が約半数で最多

⑤また潜在保育士では「短時間正職員」の希望も多い

・希望する雇用形態（年代及び現任保育士・潜在保育士別）では、全体として約半数が「パート・アルバイト」での雇用を希望しており、年代が上がるほどその傾向が強くなる。 → P10の1（問1と31）

また、潜在保育士では「短時間正職員」を希望する割合が、60歳以上を除く全ての年代で約20%みられる → P10の1（問7と40）

（２）保育施設用調査

①県内の7割の保育施設が保育士の確保が「困難である」と回答

・現在、保育士の確保に困難を感じているかについては、全体として約7割（69.8%）が「困難である」と回答し、県内の全域において「困難でない」を上回っている。

→ P7の1（問1と12-5）

②保育士の雇用に関して求める支援は「潜在保育士の登録・斡旋の仕組み」が最多

・今後保育士の雇用に関して求める支援については、最多が「潜在保育士に登録してもらい、県内の保育所に斡旋する仕組み」59.5%、2位が「潜在保育士再就職に向けた研修の実施」44.4%、3位が「再就職意向のある方を対象にした就職相談会の実施」39.2%となっている。 → P9の4（問16）

（３）保育士養成校調査

○養成校、学生ともに現在の給与の改善を求める声が多い

→ P16・P18

○用語の説明

「短時間正職員」

正職員と比べて所定労働時間が短い正規型の労働者であって労働契約に期間の定めがなく、時間あたりの基本給、賞与、退職金等の算定方法等が正職員と同等である者。

「潜在保育士」

保育士資格を有していながら、現在保育士として就労していない方を指す。なお、「保育施設用調査」では、採用の困難性をより明確化するため、保育士資格を有していながら、連続した5年以上の期間にわたり保育士として勤務していない方(就労経験の無い方を含む)を「潜在保育士」として定義した。

「保育士養成校」

保育士養成課程をもつ大学、短期大学、専修学校等。奈良県内では、現在全8校。